

## 第4回 九重町立小学校のあり方検討委員会 会議録

日 時	令和8年2月27日(金) 18:30~20:00
場 所	九重町文化センター 大会議室
出席者	委員16名、教育長、事務局6名
欠席者	委員3名

内 容	
1	開 会
2	委員長あいさつ
3	経過報告
	<議事>
4	内容検討 (前回会議の振り返りおよび今回の会議で検討する内容の説明) <ul style="list-style-type: none"> <li>■「校区の特色を生かした地域協働の取り組み」(案)の確認            前回会議までに意見を出してもらった地域の特色や資源等の一覧表を各学校運営会議等でさらに検討してもらった            その内容について各地区から発表</li>   <li>■地域の特色を活かしたここのえ学園構想「ここのえ学」の検討            地域の特色を活かした取組を学校のカリキュラムに取り入れられないか検討</li> </ul>
5	その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>■次回委員会について</li> </ul>
6	閉 会
意見	
	~各学校の特色を生かした地域の取り組み 追加・変更点~ (東飯田地区) 活動の例にジュニアリーダー・東ハンターを追加した。地域に関わる機会を増やすため、夢フィールドを全校児童参加とするのはどうか、東飯田小学校でもスキー教室を実施できると良い等の意見があった。 (野上地区) 地域の資源として、野上祇園・ブルーベリー・梅の家を追加した。地域の人材として、三遊亭

好二郎さん、桜井ユキさんの名前が出た。意欲的にアピールしていけるといい。

(野矢地区)

地域の資源として、飯田高原の地熱。地熱開発の途中で起こった坊主地獄が追加となっている。地域の団体は前回と同様。縦というより横一列での協力が出来ている。

(淮園地区)

変更はないが、150周年記念行事に向けて実行委員会を発足した。新校長・教頭が決まればさらに進めていきたいと思っている。

(南山田地区)

地域の特色として、玖珠町へのアクセスの良さ。地域の資源として、玖珠神楽・明倫盆踊り・蛍・秘湯を追加。人材や団体も追加している。活動例としてジュニアリーダーや放課後チャレンジ教室。また、校区は淮園小になるが人間国宝岐部さんの講話を総合的な学習に実施する等の意見があった。

～地域の特色を活かしたここのえ学園構想「ここのえ学」の検討～

意見①：宝っこ夢フィールドは水曜日の放課後に公民館で実施しており地域と関わる活動が多い活動だが、参加したい子だけが参加できる希望制になっている。これを授業として学校で実施するように出来ないか。

意見②：PTAで先生たちの働き方改革について聞いた。授業の準備や教材研究などを1人でしているとこのことで、教えるために先生たちも勉強しないといけない。先生1人で抱えるのではなく、地域の人材（その分野が得意な人）を招いて話をしてもらおうようにすればいいのでは。祖父が4年生に授業をしている。こういうのをもっと増やしていけるといい。

意見③：東ハンターの取り組みは学校周辺の史跡をオリエンテーション形式で周るもので、例年休日に実施していた。しかし、休日だと参加希望者が少ないため、平日の日中に開催できないかとの提案で今年度初めて平日に実施した。個人的な意見で言えば、育成協議会や地域にお任せをして教員は参加者というスタンスでいいのではと感じた。学校（特に地元出身ではない教員）は地域の人をお願いをすることに遠慮してしまう傾向があるが、もっと積極的に依頼できるといいと思う。

意見④：野上祇園のメンバーは20代～60代、若い人たちがかなり関わっている。野上祇園以外の行事も頑張ってくれている。ゲストティーチャー等依頼をすれば地域の活性化に対して協力してくれると思う。職業体験も色々な分野で実施出来そう。消防団も仲がいいので頼めば色々出来そうだと感じている。

意見⑤：野矢地区の取り組みとしては親子山村留学。今1名が留学中。来年からまた1名増える予定。小学校存続のために野矢校区活性化協議会を立ち上げ、学校に関わっている。野矢っ子探検隊や運動会等、地域を挙げて頑張っている。小さい学校が残るために必要なことは、子どもが地域に残ってくれる循環づくり。そのための小学校時代の思い出作りにある。積極的な活動をしていくことが大事だが、ずっとやっ

ているとマンネリ化する。先細りになる活動もあるがそれでいい。それは必要がなくなくなっただけ。活動にも新陳代謝が必要で、メンバーが「やりたい」と思うことを実施していくことが大切。みんなが興味を持ってくれる地域でないといけない。地域と若者の連携。少人数になるのは仕方がない。大分県全体で見ても生まれてくる子どもが少ないと言われている。継続したここのえ学園のつながりがあるとよい。

意見⑥：今この場でぱっと言われて出せるようなことはすでに実施している。他の方からも話があったが、もっと地域を頼っていいと思う。地元住民の受け入れる覚悟はできているのでもっと地域に投げたらい。図々しくお願いしても地域は応えてくれるはず。新しい取り組みはないけど、今取り組んでいることを点検しながらもっと濃くより密に発展させていくのがいいのではないかな。

意見⑦：ふるさとに対してプラスの気持ちを持たせるには「思い出づくり」が大切。そのために地域としても楽しく参加しようという気持ちで活動を計画している。活動内容は毎年同じであっても、子どもは毎年変わっていくので地域の伝統として同じ活動を続けていくことも大事。支援する先生も高齢化しているので、若いスタッフを探していくことも大切。

意見⑧：飯田小学校のファミリー学級で「絵手紙教室」を実施した。絵手紙を趣味としている地域の方をゲストティーチャーとして招いた。講師の方は、孫が学校にいないと子どもたちとの接点がないからなかなか学校と関わる事が出来ない。子どもと話すことができ嬉しかったと言っていた。特色あることも大事だけど普段の生活・普通のことでも呼んでいいのでは。気軽に学校に来て交流できるようになるといい。地域の人たちは思っているより子どもを大切に思ってくれている。

意見⑨：自分自身も週に1・2回は学校に顔を出している。地域の人も子どもに野菜栽培や竹とんぼについて教える等、現時点でも地域とのつながりは強いと感じてる。自分が携わっているスキーについて言うと、九州にスキー場は九重町のみ。他の地域の方からは「部活動にスキーがあれば九重町に引っ越してくるのに」という声がある。スキー場があるところはなかなかない。学術的にも足裏を鍛えると認知症にならないという観点からもスキーは良い。いつか戻ってくる思い出づくりのためにももっと活用したり、アピールしたり出来ると良い。

意見⑩：淮園小学校ではホタルについて長い間取り組んでいる。研究して発表することを20年近くやっているが、長くやっているとどうしてもマンネリ化する。せっかく長くしていてもデータがいつも同じようなものになっているので、取り組むのであればもっと深い研究が出来るといい。ホタルだけではなく希少生物なども研究出来るといいのでは。樽太鼓も学校の時間として全員で取り組めるといい。豊後高田市のコミュニティスクールでは木曜日の5時間目に全員で集団行動やギター講習を実施しているとのこと。淮園地区にはおやじバンドもあるし、全校で集中して取り組めないか。○曜日の○時間目に全校で取り組む、といった学校をあげての活動にしてもいいのではないかな。

意見⑪：各地区に良いところがいっぱいある。スキー場ももっと活かしていけるといい。子ど

もたちが戻ってきたいと思える街になるといい。色々な活動を企画しているが子どもたちはその時に楽しむことに夢中で、大人の頑張りやありがたみは大人になってからしか分からない。スキーが年中無料とか、吊り橋が無料とか、メリットになり得るものはどんどん活用していずれ戻ってきてくれれば良い。メリットは自分のところだけではなく周りの地域も取り入れていけたらより良いのでは。

意見⑫：子どもが6か月の時から、ふれあい食堂や社会福祉協議会のチャレンジ教室に行っている。ゲストティーチャーの方は呼んでもらえて子どもたちと話せることが嬉しいと言っている。あやとりや折り紙とか教えられることがあれば、もっとしてあげたい、子どもたちに関わりたいという気持ちを強く持ってくれていると感じる。ただ、自分の孫とか関わりがない中で学校との距離があるからいきなり電話したりするのは難しいようだった。何かいい方法があるといい。

意見⑬：南山田小学校の職員の中で玖珠・九重町に縁がある人、長年勤めている教員は半分もいない。職場の中でゲストティーチャーの紹介が出来ない。自分自身も九重町の勤務が長いが、他の職員に紹介できるような地域の人や場所は少ない。資源や特色も知らないことがまだまだ沢山ある。子どもたちが地域を好きになって、南山田で良かったと思ってもらうためには教員が子どもと地域をつなぐ役割をもっとしていく必要があると感じた。分からない時は公民館等に相談すれば良いと思う。ふれあい食堂では地域の方が子どもたちを待っているということをよく耳にする。何か学校として地域と子どもを繋ぐとか地域にお任せすることを考えることも大事だと感じた。

意見⑭：例えば1～2年生、生活科の中で野菜を育てる活動があるのでそこを地域の方をお願いする。グランドゴルフを体育で取り組んだこともある。3年の社会科は地域学習になるのでそこも活用が可能では。下旦祇園とかもしたことはある。

意見⑮：子どもたちは入学したときはまず学校を知ることから始める。そこから学年が上がれば地域を知る、日本を知る等、どんどん視野を広げていく。その過程の中で公民館（公共施設）を学ぶ機会もある。

意見⑯：私自身は学校に積極的に関わりたい変わり者だと自覚している。ただ、そういう変わり者はたくさんいる。学校は過去ゲストティーチャー等でお世話になった人については住所や電話番号等の情報を積極的に聞いてリストを作っておく。遠慮なくまたお願いするほうが良いのでは。今日の会議でも地域の方は参加したいけどどうしたらいいかわからないみたいな話がたくさん出ていた。先生方はおじいちゃんおばあちゃんに甘えるような意識で頼ったらいい。

意見⑰：社会福祉協議会で働いている。社会福祉協議会でも地域の方の情報を沢山知っているので何かあれば頼ってもらえると良い。

意見⑱：人材バンクを学校の代わりに地域の人に主体的に動いてもらって作ることが出来ると良いという意見には反対する。地域は積極的に関わるし、受け入れもするが、学校から求められていないものを提供することは出来ない。各学校が何を望んでいるのか明確に地域に伝える必要がある。それは学校の仕事。地域に言われても困る。

意見⑱：自分を含め、地域協働活動推進委員が九重町に4人いる。本来であればコーディネーターとして動くようになっている。学校が求めているものが分かれば推進委員が橋渡しできるようになると思う。現状そこまでの活動が出来ていないのは推進委員の反省点。もっと委員同士で情報共有できるようになればいい。

意見⑳：コーディネーターがいること知らなかった。学校と協力しながら求めていることが分かるようになればもっと動きやすくなるのでは。各地区で情報共有して進めていけたら良い。

意見㉑：子どもは少子化で数が減るのは分かっている。しかし、自分の地域から学校が無くなるのは困る。小学校の取り組みとして東飯田小以外はスキー教室を行っているが、これを行政が関わって町全体でスキーに取り組めるようにするのはどうか。特色になるのでは。町内に子どもがいないのであれば外からの子どもを引っ張ってくる努力をしなければならない。そのリーダーを佐藤暁史さんに任せたい、あとは、吊り橋の無料券を年に2枚くらい配って九重町に来るとこんな利点があるというアピール材料にするのはどうか。それも一つの効果になるのでは。九重町の資源を生かして人を増やす取り組みを教育委員会が実施していけるといい。

意見㉒：人材バンクの話がすごくいいと思った。ただ、合わせて世話焼きとかコーディネーターの人も一緒に育てていけると良い。実際何かをすとなれば計画を立てたりする必要がある。そういったことを担う立場の人の育成が必要。保護者でも協力してくれる人もいるはず。

意見㉓：各地区の地域協働活動推進委員が集まってそういう話をする機会が今までなかった。情報交換の場があると良い。

意見㉔：人口が1万人を切ってから体感がすごく早い。もう8,000人になろうとしている。そうなるとうちでも少子化を考える。なんとか住みやすいまちづくりをして子どもたちに戻ってきてほしい。小学校は残していきたい。アイデアは今のところないが、こういう会合があって議論をするだけでもいいことなのではないか。

意見㉕：玖珠町の古後小は児童が1人だが、学校は維持している。なぜ存続させているか理由は知っているか。子どもがどんなに少なくても、この小学校に通いたいという子がいれば学校は残すべきではないか。子どもがいなくなっても閉校ではなく休校とするべきではないか。休校から復活した学校もある。子どもが少ないからといって統合という考えにはしてほしくない。

次回開催予定日

次回開催は3月の予定のため、事務局で日程調整し、後日お知らせする。3月23日からの週を予定。